

令和3年度 自己点検・自己評価について（助産学科）

1. 自己点検・自己評価の概要

- 1) 全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部が作成した、「自己評価書」を用いて、教職員が評価する。
- 2) 自己点検・自己評価の結果を分析することで改善点を明確化し、具体的な計画を立案して取り組む。

2. 評価内容・方法

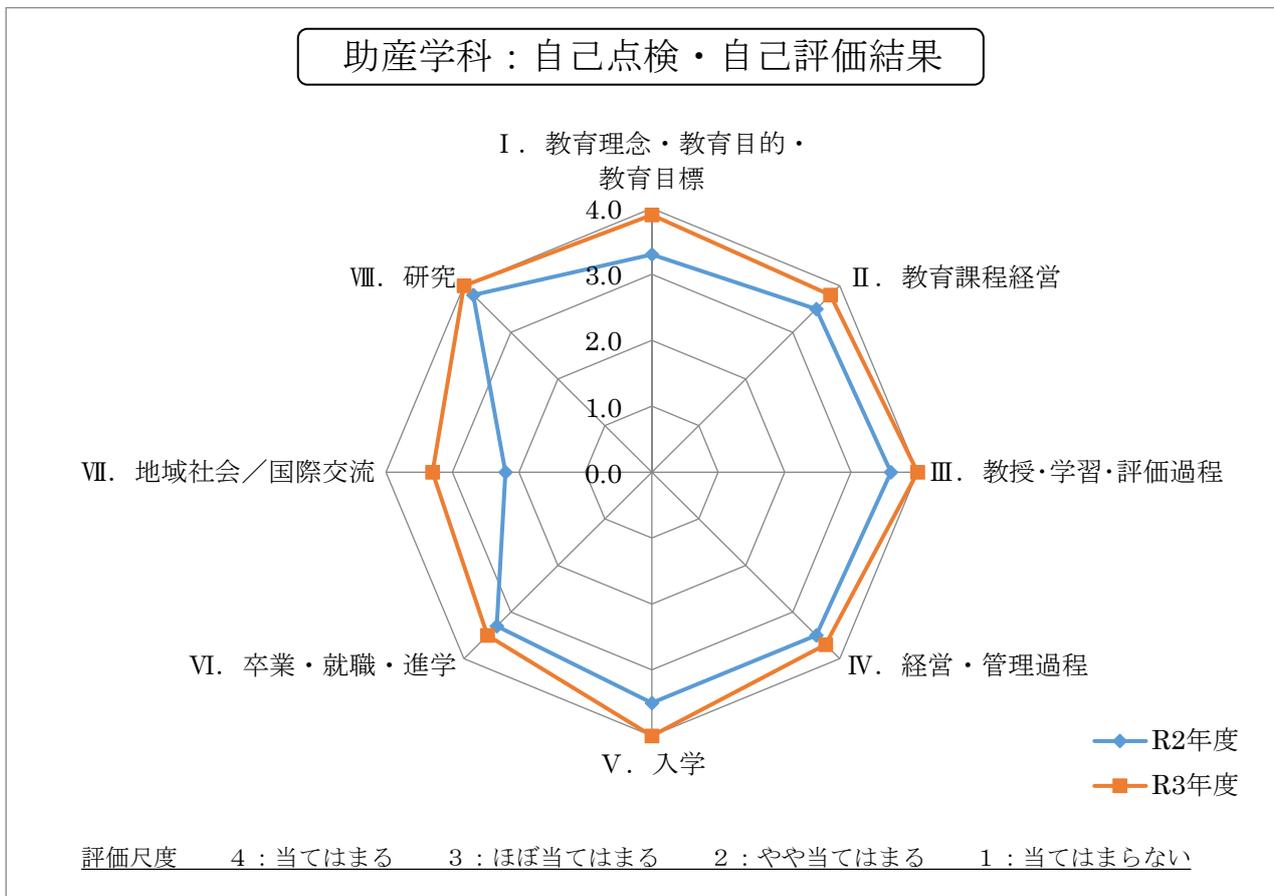
- 1) 評価表：8領域、129の評価項目
- 2) 評価基準：4段階評定

〈4. 当てはまる〉 〈3. ほぼ当てはまる〉 〈2. やや当てはまる〉 〈1. 当てはまらない〉

3. 評価結果

1) 結果

全129項目の評価は、4点が108項目、3点が19項目、2点が1項目、1点が1項目であり、全体平均点は3.8点で、昨年度より0.4ポイント上昇した。すべての項目において評価点が上昇した。とくに、Ⅱ.教育過程経営、Ⅲ.教授・学習・評価過程に重点的に取り組みできた。Ⅶ.地域社会/国際交流については課題がある。



領域別評価結果

評価内容（領域）	年度別平均点	
	R2 年度	R3 年度
I. 教育理念・教育目的・教育目標 （法との整合性 教育の特徴の明示）	3.3	3.9
II. 教育課程経営 （教育課程編成の考え方 教育計画・評価）	3.5	3.8
III. 教授・学習・評価過程 （授業展開過程 学習支援）	3.6	4.0
IV. 経営・管理過程 （指針 組織体制 施設設備 学生生活支援）	3.5	3.7
V. 入学 （入学選抜の考え方・妥当性）	3.5	4.0
VI. 卒業・就職・進学 （就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の学生の状況把握）	3.3	3.5
VII. 地域社会／国際交流 （地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ）	2.2	3.3
VIII. 研究 （研究活動の保障 研究成果発表）	3.8	4.0
平 均	3.4	3.8

4. 各領域の結果と今後の課題

I. 教育理念・教育目的・教育目標

1. 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 別表2「助産師教育の基本的考え方、留意点」に基づいて、教育目標を設定している。
2. シラバスには、助産実践の基本概念（人間、環境、健康、看護、助産についての考え方）、教育方針を示し、教育課程構造図、科目の位置づけと考え方において、教育内容を説明している。
3. 学生手帳には「ディプロマポリシー」として、シラバスには「卒業生の特性」としてあげており、整合していない。新カリキュラムでは「ディプロマポリシー」として整理している。

【課題】

- ・R4 年度カリキュラムにおいて、ディプロマポリシーと教育内容との関連を整理し、明示する必要がある。

II.教育課程経営

1. 教育課程と授業科目の、教育評価の関連性を明確にした。
2. 実習前教育の充実をはかった（妊婦健診シミュレーション、臨床推論学習プログラム）。また、実習中間、卒業前に分娩介助 OSCE を実施した。
3. 助産診断・技術学の分野について、横断する教育内容についてシラバスを組み直し、学習進度も調整した。
4. 今年度は教員同士の授業案を共有し、授業の質を担保しつつ準備時間の短縮をはかることができた。

【課題】

- ・学生による授業評価は、外部講師（教員以外）については行っていないので、取り組む必要がある。

III.教授・学習・評価過程

1. 学習成果を考慮した科目配置について、重複する内容や進度を調整してシラバスを整理し実施した。
2. 助産診断・技術学の教育内容について、授業案の共有と実施後の評価をおこない、教員間で教育内容の妥当性を検討した。

【課題】

- ・新カリキュラムにおいて、教授・学習・評価過程に取り組む必要がある。

IV.経営・管理過程

1. 実習旅費・謝金関係の収支などの可視化をはかった。
2. 財政基盤について、授業料・教育環境充実費（実習経費含む）の額が支出に見合っているかを検討するためのデータを把握した。
3. オンライン授業を充実させるために ICT 環境の充実について、県からの補助金等により、全館 LAN 工事を行い整備した。
4. 学生生活の支援について、Google Classroom を導入した。

【課題】

- ・SWOT 分析のもとに BSC などを立て、考え方を示す必要がある。
- ・火災及び自然災害に対する体制について、災害対策マニュアルの見直し、マニュアルを用いた訓練に取り組む必要がある。
- ・物品管理について、点検の記録、台帳等の記録についてはわかりやすく整理する必要がある。

V.入学

1. 特別推薦の募集条件を学校の教育理念、目標を反映できるよう改定し募集した。
2. R4 年度は定員を充足できるよう入学試験を実施した。

【課題】

- ・引き続き、定員を充足させ、質の良い学生を確保するために取り組む。

VI.卒業・就職・進学

1. 卒業生に対して就職後の状況などアンケート調査を実施した。
2. 卒業生の就業先での情報については、現時点では、NHO 病院や就職先に限定され、把握方法は聞き取りによるものである。
3. 卒業生への支援体制については、相談にのる体制はある。就職後の定着状況を追跡調査はしていない。

【課題】

- ・今後は、在学中に活用している Google Classroom を活用して卒業後のアンケートやホームカミングなどの情報提供、フォローアップなど、プラットフォームとしての活用を検討している。

VII.地域社会/国際交流

1. ホームページ上で看護学校の教育状況について公開している。また、学生祭をオンライン開催し、地域住民向けに学校の紹介や教育活動を紹介した。オープンスクールでは、公開講座を実施している。また、学校主催で、学生による健康教育実習「両親教室」を地域住民対象にオンラインで実施した。
2. 学生のボランティア活動については、助産学科の場合、課外活動としてのボランティア活動はカリキュラム上難しい。実習に関連する施設でボランティア活動がある場合は積極的に参加している。
3. 養成所が設置されている地域の諸資源の把握については、岡山県ホームページにより把握できる。学生の地域母子保健実習において地区診断のデータベースになっており、教職員は学生とともに地域の診断を行っていることから把握している。
4. 国際的視野を広げるための教育内容について、地域母子保健、助産管理学のなかに在日外国人の母子保健、助産師の国際活動、諸外国の出産ケアについての教育内容を設定している。
5. 学生が自由に使えるインターネット環境について、オンライン講義ができる設備はあるが、学生が自由に使えるインターネット環境（Wi-fi など）は目的外利用などを避けるため、整備していない。
6. 海外からの帰国学生や留学生の受入れ体制はない。

【課題】

・留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制は十分ではない。希望があれば英文での卒業証明や単位証明を発行する対応のみとなっている。

VIII.研究

1. 教員の授業改善のための振り返りを行い記録に残している（妊婦健診シミュレーション、臨床推論学習プログラム、分娩介助 OSCE）。
2. 研究の成果については、国立病院総合医学会で1題発表した。
3. 母体病院の実習指導者会議で、実習指導に関する勉強会を実施した「6/9 臨床推論と助産記録」。

【課題】

・次年度は、実習前のシミュレーション教育について、授業研究に取り組む予定である（研究倫理委員会承認済）。